Japanese Association of Veterinary Anatomists

News Letter

日本獣医解剖学会報

Number 26　　September 15th, 2005

＜巻頭挨拶＞

獣医解剖学の国際化と広報活動

会長代行　谷口和之（岩手大学）

現会長の山田純三先生が、本年3月の御定年を機に実務から身を引かれましたので、私が会長代行を仰せつかってはや5ヶ月が過ぎようとしています。その間、まずは山田先生からの宿題であるAsian AVA の設立に向けて、設立準備委員会委員長の真鍋先生、春季学術集会準備委員会獣医解剖学会委員長の九郎丸先生などの方々と少しずつ協議を重ね、来たる第140回日本獣医学会（鹿児島）では皆さんにある程度の成案をお見せできるようにしようと勤めている最中であります。

大学におられる方々はよく御承知のことと思いますが、国立大学の独法化が終わり、獣医学教育の充実が取り沙汰されている昨今でも、充実対象分野は臨床や公衆衛生であり、獣医解剖学を初めとする基礎獣医学の教育充実への手当てはほとんど望むべくもありません。この現状に手をこまねいていないで、何とか獣医解剖学の教育と研究を改善していこう、という思いを表現するための一つの手段として Asian AVA の設立があると私は考えております。来年春に設立総会を開き、シンポジウムを行うということは決まっておりますが、この一回だけで終ってしまっては、Asian AVA の設立に何の意味もありません。折角設立するからには、永続性のある組織とすることが大命題であると思います。

私達獣医解剖学分野の人達は、これまである意味でおとなしく、あまり自己主張もしてこなかった嫌いがありますので、獣医解剖学教育を行うに当たって私達がどれだけの負担･苦労を強いられてきたのか、同じ獣医学の中でも他の分野の人達にはよく理解されていないのが現状だと思います。このような現状においてAsian AVA を設立するということは、獣医解剖学が世界に開かれた分野であり、諸外国の研究者の人達もそれを理解してくれている、ということを国内外の獣医学関係者に広くアピールすることになる筈です。これからの国際化の時代に獣医解剖学の国際シンポジウムを開催し、それを継続することはその意味で時宜にかなった活動です。Asian AVA の設立とその継続にはまだ問題が山積しておりますが、その実現に向けておおかたの御理解と御支援をお願い致します。

獣医解剖学の国際化を推進するためには広報活動も不可欠です。私は昨年4月から日本獣医学会の広報を担当し、ホームページ（HP）の管理、一般の方から獣医学会に寄せられる様々な質問への対応などを行ってきましたが、昨年の12月に獣医学会のHPにカウンターを設置してもらったところ、HPへのアクセスは月間約9，000件にも上ることがわかりました。ところが大学関係者は意外とHPへの関心が低く、おそらく一度もHPにアクセスしたことが無い方々も何人かおられると思います。しかしまだ獣医学への一般の方々の関心は衰えていませんので、ここで獣医解剖学の重要性、興味深さをアピールすることは大変大事なことです。懸案の獣医解剖学会HPもようやく試運転を開始しましたので、このHPをこれから充実させ、獣医解剖学会の会員が利用するばかりでなく、一般の方々や獣医学を学ぶ学生さん達も興味をもってアクセスしてくれるものにしたいと考えております。またHPが完成した暁には獣医学会のHPとリンクさせることによって、アクセス数も大幅に増やせる筈です。しかしそのためには獣医解剖学会のHPを如何に充実させるか、ということが重要です。そのためには当然各大学の解剖関係研究室自体のHPも充実させていただかねばなりません。獣医学会HPから獣医解剖学会のHP、さらに各研究室のHPへとリンクが完成することによって、獣医解剖学への一般の方々の理解と関心が深まり、解剖学研究の後継者も次々に生まれてくる、という状況になることを願ってやみません。

最後に、獣医解剖学の国際化、Asian AVA の設立、広報活動の充実、ということを一体として考えると、私はAsian AVA の会員を主体とした会誌を持つことが是非とも必要であると思います。Asian AVA そのものを何年ごとに開催するか、何処で開催するか、いろいろと議論して来ましたが、毎年開催するという考えは当面はありません。その場合、Asian AVA を開催しない年でも会員にその存在を意識していてもらうため、また会員の原著論文発表の場を提供する、というためにも年4回の会誌発行を行いたいと思います。原稿が集まるのか、費用は、編集は、といった問題はいろいろとありますが、会員の皆様の御協力があれば乗りきれることだと思います。会誌発行に関しては1999年にアンケートを取り、時期尚早ということで見合わせた経緯がありますが、その当時とは事情が異なってきております。まずこの会誌は、当面はアジア地域から、将来は全世界からの投稿を受け付ける、という建前に立てば、いずれはかなりの原稿が見込まれるようになると思います。世界的に、獣医解剖学を主体とした国際誌が存在しない現状では、この会誌の存在意義は大きいと思います。また各大学で獣医解剖学による学位を取得し、母国に帰った大学院出身者が増えてきています。この人達へのアフターケアの一環として、国際誌としてのこの会誌に論文発表の場を与えることは有意義なことだと思います。さらに、獣医解剖学会の経済事情も以前より好転していますので、会誌発行への多少の負担には耐えられるようになっていると思います。会誌の発行は Asian AVA 設立からの当然の帰結であると思いますので、今後、これについても検討を重ねたいと考えております。どうぞ会員の方々の御理解と御支援をお願いいたします。

（平成17年8月30日記）

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

寄稿（留学終了者から）

松元　光春　（鹿児島大学）

コーネル大学獣医学部に留学

2004年10月より2005年7月まで

「形態学と分子生物学の融合を探る」

私は、昨年の10月中旬から今年の7月中旬までの9ヶ月間、ニューヨーク州にあるコーネル大学獣医学部に、文部科学省の海外先進教育研究実践プログラム（在外研究員制度に代わるもの）の助成を受け留学しました。

大学のあるイサカ市は、ニューヨーク市から高速バスで約5時間の所にあるのどかな田舎町です。緯度的には青森当りなのですが、

内陸にあるせいか南国育ちの私には冬の寒さは身に染みました。しかし、凍った川、ダイヤモンドダストや霧氷を見た時は感動しました。また、道端に小さな花がひっそりと咲いて春を告げると、名も知らない木々が色鮮やかな花を一斉に咲かせたり、初夏にはホタルが乱舞したりと自然の豊かな素晴らしい所でもあります。

ところで、今回の留学の目的は分子生物学と形態学の融合を計るというものです。そこで私は、Population Medicine & Diagnostic Sciencesという分野に属する微生物学と免疫学が専門のChang教授の研究室に飛込みました。この研究室は、教授が台湾出身ということもあり、生粋のアメリカ人は1人で、他はブラジル人1、インド人2、中国・台湾人5、韓国人2とアジア系研究者が多く集まっていました。ほとんどがポスドク等の流動研究員で、私のような解剖学者を受入れたのも初めてなら日本人も初めてだということでした。

さて、研究の方は、私が分子生物学のド素人だということから、教授からは中国人研究者に付いてレプトスピラの細胞外膜蛋白の遺伝子をクローニングするよう指示され、パートナーの実験を手伝いながらテクニックをマスターすることから始まりました。実験を一通りマスターした後はひたすらクローニングに励み、約4ヶ月後には2人で約50個の遺伝子をクローニングできました。これでやれやれと思っていたら、次にクローニングした遺伝子（DNA）がワクチンとして使えないかということで、ハムスターへの投与とレプトスピラの感染実験によるスクリーニングをするよう指示を受け、これに残りの期間を費やしました。この期間は、用いたDNAを大腸菌に組込んで、蛋白質発現のチェックも同時に行っておりました。残念ながら時間の都合で私の動物実験は材料採取で終わってしまいましたが、後に残ったパートナーが続きの解析を行っています。私としては発現させた蛋白質から抗体を作製し、腎臓や肝臓における局在も検索したかったのですが、形態学への展開もできることが分かったという点では所期の目的を達成できて良かったと思っております。

これから今回の経験を教育研究の発展に反映させていきたいと思っております。

コーネルタワー

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

◇第 140 回日本獣医学会学術集会案内◇

会期：2005年9月29日～10月2日
会場：かごしま県民交流センター
・かごしま県民交流センター（鹿児島市）において、本学術集会に合わせて九州地区の三学会（日本産業動物獣医学会、日本小動物獣医学会、日本獣医公衆衛生学会）と九州地区獣医師大会が開催されます。獣医解剖学関連の講演は77題となっています。

・サテライトフォーラムは本学会では実施しません。

日本獣医解剖学会　（9月29日、30日）
一般講演会場：第５会場　（かごしま県民交流センター3 階）
日本獣医学会のＨＰにも掲載してますので合わせてご覧下さい。

A. 日本獣医解剖学会　1演題10分（発表7分，質疑3分）
9月29日　（木）　第5会場　午前　17 題

佐々木基樹　9：00―9：20
A-01　オランウータン（*Pongo pygmaeus*）上下肢の肉眼解剖学的検討
　○加世多美怜、大石元治、市原伸恒、浅利昌男、早川敏之（麻布大）
A-02　ウマの鎖骨画における形態学的研究
　○植田弘美、寺井洋子、渡辺敬文、保坂善真、竹花一成（酪農大）
橋本善春　9：20―9.50
A-03　ウマ晒骨の分裂線について
　○武藤顕一郎、政木二朗、大野秀樹、辻尾祐志、谷口和美、吉岡一機（北里大）
A-04　ウシの房室口閉鎖の形態学
　○村上隆之、内田和幸、萩尾光美、浜名克己（宮崎大）
A-05　ラット胎子動脈管のインドメタシンに対する感受性（第二報）
　○有嶋貴義、白井明志、山本雅子、西川　修、赤堀文昭、有嶋和義（麻布大）
九郎丸正道　9：50―10：10
A-06 Molecular cloning, expression profile and functional implications of clusterin in the pituitary gland of helmeted guinea fowl (*Numida meleagris*)
　○Claudius Luziga、山本芳美、堀井洋一郎、萬場光一（山口大）
A-07　MRL マウスの小型精巣に関与する第二責任因子について
　○昆　泰寛、並木由佳、今野明弘、橋本善春、遠藤大二（北大）
保坂善真　10：10―10：30
A-08　張力負荷培養系におけるマウス 12 型コラーゲン遺伝子発現の制御機構
　○長嶋友子、天野　聡、西山敏夫、新井克彦（農工大）
A-09　MyoD ファミリーによるマウス14型コラーゲン遺伝子発現の制御
　○金井美映、長嶋友子、木津雄介、新井克彦（農工大）
小川健司　10：30―10：50
A-10　シェーグレン症候群モデル IQI マウスの B 細胞異常増殖に関わる感受性遺伝子座
　○今野明弘、橋本善春、昆　泰寛（北大）
A-11　新規矮小ミュータントマウス *Smallie* の解析
　○加納 聖、Jay Young、Patsy Nishina、Jurgen Naggert、内藤邦彦、東條英昭（東大）
今野明弘　10：50―11：20
A-12　ddY 系白内障マウスにおける水晶体蛋白の変化ならびに遺伝解析
　○近藤友宏、居原　秀、加藤啓子、森岡宏至、岡田利也（大阪府大）
A-13　骨芽細胞分化における TGF-β superfamily の作用と Dlx5 の転写制御
　○三浦雄太郎、小川健司、金井克晃、九郎丸正道、辻本雅文（東大）
A-14　NGF 分化誘導 PC12 細胞の虚血性細胞死の抑制には CREB 活性の維持とカルパインの過剰活性の抑制が必要
　○中島崇行、若狭　崇、稲波　修、桑原幹典、河原剛一（大阪府大）
加納 聖　11：20―11：50
A-15　マウス生殖腺の初期発生過程での Sry/Sox9 発現細胞の背腹軸における時間・空間的動態
　○十文字洋子、城所知秀、平松竜司、的場章悟、金井克晃、九郎丸正道（東大）
A-16　マカク属のサル 2 種における FISH を用いた染色体解析
　○森下　享、柴田秀史、神田尚俊（農工大）
A-17　マウス着床期の子宮上皮において白血病阻止因子（LIF）に

より誘導される遺伝子の解析
○入江宏美、本道栄一、Colin Stewart、木曾康郎（山口大）

9月29日（木） 第5会場 午後 31題

木村順平 13:00－13:20
A-18 モルモット胎盤における血管構造の形態学的研究
○村瀬晴崇、本道栄一、木曾康郎（山口大）
A-19 ヤギ胎盤における二核細胞の局在の経時的変化
○塚本 篤、本道栄一、木曾康郎（山口大）
岡田利也 13:20－13:40
A-20 スンクス腎糸球体における水チャンネル AQP8 の発現について
○前田誠司、伊東久男、桑原佐知、田中宏一、早川 徹、関 真（兵庫医大）
A-21 齧歯目の腎臓における種差－ネフロン長、GFR 調節因子、水チャネルおよびナトリウムポンプについて－
○市居 修、矢吹 映、小嶋敏慶、松元光春、鈴木秀作（鹿児島大）
谷口和美 13:40－14:00
A-22 腎臓髄質の尿細管に発現する EphB2 の機能解析
○小川 和重、Elena Pasquale、津山伸吾（大阪府大）
A-23 マウスの泌尿生殖器におけるガレクチンの発現分布
○仁尾純子、昆 泰寛、岩永敏彦（北大）
前田誠司 14:00－14:20
A-24 遺伝性腎疾患 ICGN マウスの腎におけるアクアポーリンの発現異常について
森 俊治、後藤康文、阿南小有里、坂田千夏、内尾こずえ、李 俊佑、○眞鍋 昇（東大）
A-25 腎線維症病態における TGF-β1 による細胞外マトリックス架橋酵素（Lysyl oxidase）の発現制御
○後藤康文、阿南小有里、山田こずえ、山本美江、小倉淳郎、眞鍋 昇（京大）
眞鍋 昇 14:20－14:40
A-26 2 型糖尿病モデル OLETF ラットの腎臓における nNOS および COX-2 の発現
○矢吹 映、田原知徳、谷口和之、松元光春、鈴木秀作（鹿児島大）
A-27 Expression and adhesive activity of SC1, an Ig-superfamily cell adhesion molecule, in sporadic nephroblastomas of chickens
○伊藤寿恵、小谷猛夫、塚本康浩（大阪府大）
塚本康浩 14:40－15:00
A-28 Hershberger 試験による DDE が副生殖腺に及ぼす影響とその形態学的解析
○崔 恩京、Tay Tat Wei、Bibin Bintang Andriana、金井克晃、九郎丸正道（東大）
A-29 胎生期 DES 投与が精子形成調節因子へ及ぼす影響
○小林徹央、山本雅子、西川 修、有嶋和義（麻布大）
大迫誠一郎 15:00－15:20
A-30 エゾシカ（*Cervus nippon yesoensis*）精巣におけるアンドロジェンレセプターの局在に関する免疫組織化学的研究
○早川大輔、佐々木基樹、鈴木正嗣、坪田敏男、北村延夫、山田純三（帯畜大）
A-31 ビスフェノールAが雄鶏の形質と精子形成に与える影響について
○古家 優、足立和英、小川和重、塚本康浩（大阪府大）
本道栄一 15:20－15:50
A-32 ラット子宮内膜における NOS アイソフォームと NO 産生に及ぼす抗ステロイド剤 RU486 と Raloxifene の影響
○森 智絵美、池田義則、王 春鳳、吉川 宏、森田英利、田中和明、滝沢達也（麻布大）
A-33 未成熟雌ブタの生殖器系組織における肥満細胞の動態
○帖佐瑞希、紫野正雄、市原伸恒、浅利昌男、尼崎 肇（麻布大）
A-34 SHN マウスにおける子宮炎好発と Vitamin A との関係
山元明子、○竹花一成、保坂善真、植田弘美（酪農大）
柴田秀史 15:50－16:10
A-35 ブタ卵巣の顆粒層細胞において TNF-alpha は細胞内アポトーシス抑制因子(cFLIP)の発現を亢進する
○程 圓、松田二子、後藤康文、井上直子、前田晃央、眞鍋 昇（京大）
A-36 マウス子宮における angiomotin、amotl1、amotl2 の発現動態
○松本浩道、櫻井優広、佐々田比呂志、Takiko Daikoku、SK Dey、佐藤英明（東北大）
尼崎 肇 16:10－16:40
A-37 カンガルー雌性生殖器の形態
○脇谷晶一、牧田登之、本道栄一、木曾康郎（山口大）
A-38 コモンツパイの非妊娠子宮についての組織学的研究
○柳谷泰夫、本道栄一、Rerkamnuaychoke Worawut、木曾康郎（山口大）
A-39 ヤマコウモリ妊娠子宮の形態学的研究
○三好桃子、本道栄一、Rerkamnuaychoke Worawut、木曾康郎（山口大）
今川智敬 16:40－17:10
A-40 ウマ浅指屈筋腱のコラーゲン細線維直径を変化させる分子要因について
○渡辺敬文、今村保忠、保坂善真、植田弘美、竹花一成（酪農大）
A-41 若齢期のウマにおける伸筋腱および屈筋腱の組織学的変化
○山崎維嗣、渡辺敬文、保坂善真、植田弘美、竹花一成（酪農大）
A-42 ヒツジ腰最長筋の筋線維型変化に伴うカルパインとカルパスタチンの発現
○林 清吾、渡邊康一、三宅雅人、林 晋一郎、大和田修一、麻生 久、山口高弘（東北大）
小川和重 17:10－17:40
A-43 サケ皮膚由来 I 型コラーゲンゲルを用いた腱細胞培養の展開
○龍尾幸治、保坂善真、植田弘美、真船直樹、鈴木 健、竹花一成（酪農大）
A-44 腱変性過程での熱、炎症性サイトカインおよびゼラチナーゼの関連
○保坂善真、尾添紗知子、桐澤力雄、植田弘美、竹花一成（酪農大）
A-45 X 線照射による造血機能の破壊と回復時における VCAM-1 および Fibronectin の発現
○多田達哉、福田勝洋（名大）
植田弘美 17:40－18:10
A-46 イヌの毛様体における糖質組織化学的研究
○田中和人、月瀬 東（日大）
A-47 Distribution and morphology of retinal ganglion cells in the jungle crow (*Corvus macrorhynchos*)
○Lutfur Rahman、青山真人、杉田昭栄（宇都宮大）
A-48 ドライアイモデルラット角膜上皮の走査型電子顕微鏡による観察
○江畑健二、中嶋英雄、今川智敬、中村 滋、上原正人（鳥取大）

9月30日（金） 第5会場 午前 17題

萬場光一 9:00－9:30
A-49 2 型糖尿病モデル OLETF ラット舌におけるα-Gustducin の発現と味覚嗜好性
○田原知徳、山本欣郎、谷口和之（岩手大）
A-50 ウシ、ウマの味細胞の多様性
○谷口和美、辻尾祐志、吉岡一機、武藤顕一郎（北里大）
A-51 ヤギ副嗅球の組織化学的特徴
○茂木一孝、市丸 徹、大蔵聡、森 裕司、岡村裕昭（生物研）
杉田昭栄 9:30－9:50
A-52 ニワトリ Glycogen Body 細胞の小脳内移植下における動態
○遠藤なつ美、今川智敬、上原正人（鳥取大）
A-53 ラット視覚皮質から異顆粒性膨大後皮質への投射
○新妻桂子、柴田秀史、神田尚俊（農工大）

市原伸恒 9:50－10:10
A-54 NGF が DRG での細胞接着分子ギセリンの発現に及ぼす影響
○広井 聡、塚本康浩（大阪府大）
A-55 ラット喉頭の神経終末における ASIC2a の存在
○山本欣郎、谷口和之（岩手大）
横須賀 誠 10:10－10:30
A-56 出生前の PCBs 投与が雄ラット視床下部に及ぼす影響
○山本雅子、白井明志、赤堀文昭、西川 修、有嶋和義（麻布大）
A-57 ラット甲状腺濾胞上皮細胞における Cathepsin B の発現に関する形態学的研究
○辻尾祐志、吉岡一機、谷口和美、武藤顕一郎（北里大）
山本雅子 10:30－10:50
A-58 コラーゲンペプチドの経口摂取がブタ皮膚の細胞外マトリックスに及ぼす効果
○松田直也、保坂善真、植田弘美、小山洋一、入江伸吉、竹花一成（酪農大）
A-59 ニワトリ肉冠の真皮浅層毛細血管に関する形態学的研究
○蟹江安由、吉岡一機、辻尾祐志、谷口和美、武藤顕一郎（北里大）
那須哲夫 10:50－11:10
A-60 フンボルトペンギン（*Spheniscus humboldti*）の羽における走査電子顕微鏡的研究
○藤井崇人、佐々木基樹、進藤順治、北村延夫、山田純三（帯畜大）
A-61 羽毛の微細構造による鳥類の種同定法の検討
○神谷亜季菜、大森保成、福田勝洋（名大）
福田勝洋 11:10－11:30
A-62 ブタのアポクリン汗腺における離出分泌へのアポトーシスの関与および細胞動態
内海やよい、湯地みどり、大西佐知子、陳 慶義、稲元哲朗、斉 旺梅、割田克彦、星信彦、○北川 浩（神戸大）
A-63 アライグマ鼻端皮膚におけるエックリン腺の糖質組織化学的研究
○安井 禎、月瀬 東、Wilfried Meyer（日大）
山本欣郎 11:30－11:50
A-64 ニワトリの尾腺に対する androgen の影響に関する形態学的研究
○綿引芳恵、吉岡一機、辻尾祐志、谷口和美、武藤顕一郎（北里大）
A-65 Expression of gicerin enhances the invasive and metastatic activities of a mouse mammary carcinoma cell line
○足立和英、境内隆志、塚本康浩（大阪府大）

9月30日 第5会場 午後 12題
北村延夫 13:00－13:20
A-66 マメジカ、キョンおよびニホンジカにおける唾液腺の比較解剖
○木村順平、佐々木基樹、遠藤秀紀、福田勝洋（日大）
A-67STZ 投与後のラット胎子膵臓における PDX-1 の発現について
○大嶋 篤、山本雅子、西川 修、有嶋和義（麻布大）
吉岡一機 13:20－13:40
A-68 肝臓の細胞構築と Eph レセプター
○石川帝京、中島崇行、Elena Pasquale、向本雅郁、小崎俊司、小川和重（大阪府大）
A-69 成熟マウス胃粘膜における Eph レセプターの発現
○高林奈津枝、中島崇行、Elena Pasquale、小川和重（大阪府大）
平松浩二 13:40－14:00
A-70 ラットパイエル板濾胞被蓋上皮への常在細菌の定着に対する防御応答に関する超微形態学的研究
○稲元哲朗、陳 慶義、大西佐知子、斉 旺梅、湯地みどり、割田克彦、星 信彦、北川 浩（神戸大）
A-71 ラット小腸絨毛円柱上皮細胞における粒子状物の取り込みへの Fc レセプターの関与
○湯地みどり、大西佐知子、陳 慶義、稲元哲朗、斉 旺梅、割田克彦、星 信彦、北川 浩（神戸大）
山口高弘 14:00－14:20
A-72 ウマ腸神経系におけるサブスタンスP（SP）およびカルシトニン遺伝子関連ペプチド（CGRP）神経の免疫組織化学的研究
○似里浩志、北村延夫、佐々木基樹（帯畜大）
A-73 ニワトリ回腸のグルカゴン様ペプチド-1（GLP-1)含有細胞に及ぼす飼料中タンパク質含量の影響
○平松浩二、塩路智美、松本幸子、喜多一美、廬 尚健、大島浩二（信州大）
武藤顕一郎 14:20－14:40
A-74 健常牛並びに第四胃変位罹患牛の第四胃における壁在神経の免疫組織化学的研究
○伊澤 徹、河合 建、佐々木基樹、佐々木直樹、古岡秀文、山田明夫、北村延夫（帯畜大）
A-75 ウシの小腸上皮細胞株の樹立とその性状解析
○宮澤光太郎、麻生 久、渡邊康一、大和田修一、山口高弘（東北大）
上原正人 14:40－15:00
A-76 解剖学実習室内のホルムアルデヒド濃度低減対策
○柴田秀史（農工大）
A-77 獣医肉眼解剖学用語集第5版（NAV 5th ed.）の改訂内容と ICVGAN の活動について
○橋本善春、昆 泰寛（北大）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

懇 親 会 案 内

日程終了後、懇親会を下記の通り執り行います。多くの皆様方のご参加をお待ち申し上げております。

日時：平成17年9月30日1泊2日
場所：ホテル霧島キャッスル
899－6603 鹿児島県姶良郡牧園町高千穂
TEL：0995-78-2211
会費：15,000 円

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日本獣医解剖学会理事会】
日時：9 月 29 日(木) 18 時 10 分～ （一般講演に引き続き）
場所： 第5会場 （一般講演会場と同会場）
理事、オブザーバーの先生方はご参集下さい
議題 総会と同じ議題について審議します

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日本獣医解剖学会総会】
日時：9 月 30 日 15 時～16 時、第5会場
議題 1. Asian AVA 設立総会、シンポジウムについて
2. ホームページの立ち上げと管理について
3. 獣医解剖学会奨励賞の発表・贈呈について
4. その他
報告 1. 平成18年度春季学術集会準備委員会について
2. その他

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◎日本獣医解剖学会奨励賞の決定と表彰式について◎

理研で開催された第139回日本獣医学会での学会発表では日本獣医解剖学会奨励賞および奨励賞学部学生部門の選考は実施されず該当者はいません。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

学生の日本獣医学会（於：鹿児島大学）参加費（三千円）補助の件
・補助の条件
1）学部生ないし大学院生で日本獣医解剖学会学生会員であること。
2）今回の日本獣医学会/日本獣医解剖学会で筆頭著者として発表すること。
3）教員等、本人以外が代理発表した場合は、補助の対象としない。

・参加費の受け渡し

4) 日本獣医解剖学会理事会、懇親会、その他の折り、講座ごとにまとめて、指導教員が学生に代わって会計担当者（東大・九郎丸）より代理受給する。指導教員は責任をもって学生に支給する。

5) 補助対象の学生がいる場合は、学会前に前もって会計担当者にメール等で学生の名前を連絡しておく。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◇次回日本獣医学会案内 ◇

第141回日本獣医学会学術集会

会期：平成18年3月19日（日）～21日（火・祝）

会場：つくば国際会議場（エポカルつくば）

日本獣医解剖学会関係

ポスターテーマ（1F多目的ホール　展示会場）

（1） 泌尿生殖器の形態学の新展開

（2） 消化器研究の形態学的アプローチ

（3） 新たな循環器研究の展開

（4） 形態学への分子生物学的応用

シンポジウム（口演）　（2F中会議室201　第5会場）

平成18年3月21日（火）

9：00−12：00　獣医解剖シンポジウム

「アジアの獣医解剖学教育の現状と将来展望」

会議名：第 1 回アジア獣医解剖学会大会（The 1st Conference of Asian Association of Veterinary Anatomists）

9:00 - 9: 30　中国における獣医解剖学教育と研究の現状と問題点および将来の展望

中国農業大学獣医学部　陳 耀星 教授

9:30 -10: 00 韓国における獣医解剖学教育と研究の現状と問題点および将来の展望

ソウル大学獣医学部・Heungshik S. LEE 教授、

忠北大学獣医学部　Sang-Yoon NAM 教授

10:00 -10: 30 バングラディシュにおける獣医解剖学教育と研究の現状と問題点および将来の展望

バングラディシュ農業大学獣医学部　Mohammed Zahirul Islam KHAN　教授

10:30 -11: 00 インドネシアにおける獣医解剖学教育と研究の現状と問題点および将来の展望

ボゴール農業大学獣医学部 Srihadi AGUNGPRIYONO 教授

11:00 -11: 30 タイにおける獣医解剖学教育と研究の現状と問題点および将来の展望

カセサート大学獣医学部 Worawut RERKAMNUAYCHOKE 教授

11:30 -12: 00 日本における獣医解剖学教育と研究の現状と問題点および将来の展望

岩手大学農学部　谷口和之 教授

12：00−13：00　獣医解剖学会理事会（4F小会議室407　第17会場）

13：00−14：00　スペシャルトピックレクチャー

「TGF-βを標的とした肝星細胞の活性化・機能の制御」

理化学研究所・分子細胞病態学研究ユニット・小嶋聡一先生

14：00− 17：00　獣医解剖シンポジウム

「獣医学教育におけるプラスチネーションモデルおよびマルチメディア・プログラムの開発・応用とその効果」

14:00-14:50　Robert W. HENRY 教授(テネシー大学獣医学部比較医学講座、米国、国際プラスチネーション学会会長)

演題名：「Development of Plastinated Anatomical Specimens andtheir Application to Teaching Veterinary Anatomy」

14:50-15:30　Peter SOTONYI 教授（Szent Istvan 大学獣医学部解剖・組織学講座、ハンガリー）

演題名：「Application of Multimedia Teaching Programs in VeterinaryAnatomy Education」

15:30-15:50　辰巳治之教授（札幌医科大学解剖学）

演題名：「A Challenge to Three-Dimensional Reconstruction System Development」（三次元再構築システム開発への挑戦）

15:50-16:10　落合謙爾助教授（北大獣医学研究科病理学）

演題名：「獣医学系教育 IT ポータルサイト」

16:10-16:30　内藤直樹氏（有限会社ヒューマン・アニマル・ボンド取締役）

演題名：「日本・世界の獣医療発展の一翼を担う、デジタル・デザインの可能性とその未来」 – 今後の獣医解剖学に役立つ、新しい学術研究ツールの開発に向けて–

16:30-17:00　総合討論

17：00− 17：30　獣医解剖学会総会

18：00−　Asian AVA 設立総会ならびに懇親会（別会場）

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

学会での検討事項について

1. 犬の解剖学実習のための献体制度に関連する調査報告

平成17年3月中旬ごろ獣医解剖学会の会員宛に「教育における動物倫理を考えるネットワーク」に所属の学生会員から、日本の獣医学科における犬の解剖学実習のための献体制度に関するアンケートが寄せられました。これに対応するために、同年3月29日の獣医解剖学会理事会で解剖実習に使用する実習犬の献体システム導入についての調査が日獣大の尼崎と東京農工大の柴田に依頼されました。献体制度を実現するためには、実習個体の主な入手方法、処理方法および実施のためのスタッフ構成など具体的な様々な問題あります。そのような問題については，すでに平成 10 年に“獣医解剖学教育における肉眼解剖学実習の実態と解剖体入手の問題点”とする調査報告がまとめられJVM, 51(9)に発表されていますが、その後7年程度の時間が経過しているため，今回再度、獣医解剖学実習に関する全国レベルのアンケート調査を実施しました。その結果、動物関連学科を含む獣医学科の全ての大学から回答が回収されました。アンケート結果については第140回獣医学会開催時に開かれる獣医解剖学会の理事会および総会にて発表する予定ですが、その概要は、犬の実習の場合ほとんどの大学が固定材料を用いているため献体を使用するシステムの導入は可能ではあるが、現状では実習個体の前処理および実習を担当するスタッフの不足が目立ち、献体制度の実施は困難であるというものでした。したがいまして、将来、献体制度を実施するためには実習担当教職員の大幅な充当、地域ごとの実習個体管理なども含めいくつかの根本的な問題の解決が必要であると思われます。さらに、海外での実状を調査し、今後献体制度を導入するための調査を継続する予定であります。

（文責：日獣大；尼崎　肇、東京農工大；柴田秀史）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

2. アジア獣医解剖学会について

次回学会案内に掲載済み

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

人 物 往 来

✧　北村　延夫先生、帯広畜産大学助教授から教授に昇格

（2005年4月1日付）

✧　佐々木　基樹先生、帯広畜産大学助手から助教授に昇格

（2005年4月1日付）

✧　山本　雅子先生、麻布大学助教授から教授に昇格

（2005年10月1日）

✧　塚本　康浩先生、大阪府立大学講師から助教授に昇格
(2005 年 10 月1日付)

✧　中島　崇行先生、北海道大学電子科学研究所助手から大阪府立大学助手に移動　(2005 年 4 月 1 日付)

✧　桑原　佐知さん、兵庫医科大学医学部解剖学第一講座助手
(2005 年 4 月 1 日付)

✧　保坂　善真先生、酪農学園大学助手から講師に昇格
(2005 年 4 月 1 日付)

✧　吉岡　一機先生、北里大学助手から専任講師に昇格
(2005 年 5 月 1 日付)

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

学 位 取 得

☆Dwi Kesuma Sari さん (大阪府立大学) 、Effect of prolonged low level chemical exposures on the hypothalamo-pituitary-adrenal gland axis of adult female mice、平成 17 年 9 月 (予定)

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

日本獣医解剖学会名簿変更、追加について

昨年 11 月に配付いたしました日本獣医解剖学会名簿に関して変更･追加等、御気付きの点がありましたら下記まで連絡ください。

酪農学園大学獣医学部獣医解剖学教室内
日本獣医解剖学会NL編集担当
069-0851 江別市文京台緑町 562-1
TEL: 011-388-4744
FAX: 011-388-4852
E-mail: takechan@rakuno.ac.jp

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

教 科 書 の 案 内

「獣医組織学第三版」の刊行について

編集委員長　上原　正人

標記教科書を本年4月からの開講に間に合わせて出版することが出来ました。執筆者の方々、ならびに学窓社の関係諸氏に心から感謝いたします。

今回の改版では一部の執筆者の交代はありましたが、基本的には前版と同じ方に依頼しましたし、修正箇所は執筆者にお任せしましたので、かなり大きく変更した章とほとんど同じ内容の章が混在しています。しかし、誤解を生む表現の修正、網掛け部分の整理、及び付図の変更や追加がなされ、全体としてはかなり良くなったと自負しています。

新版が出たばかりですが、怠け者の私が何もしないまま次の改訂時期を迎えることの無いように今後の方針を表明しておきたいと思います。

1. 獣医組織学は獣医解剖学会が責任編集するもので、執筆者は学生と学会のためにボランティアとして参加していただいています。そこで、現職にある方を優先して執筆者になっていただくこととします。

2. なるべく早期に次期改版に向けた方針を編集委員会で作成します。この中では CD をより有効に活用することも大きな課題です。

3. 各章についての勉強会を編集委員と関係教員により実施し、日本獣医解剖学会が責任を持って編集したものにします。

最後に、教科書として使う中で改善するべき箇所についてお気づきの点があろうかと思います。気になったときにはメモ代わりで結構ですから私宛にお知らせ願えれば幸いです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

学 会 か ら の 出 版 物 案 内

「犬のカラーリングアトラス」

編集委員長　月瀬　東

2004 年 10 月に学窓社より第 2 刷 1500 部を発行しました。本書は、各大学の学生実習はもとより開業医の方々にもよく利用されているとのことで、本年 9 月末には在庫が 150 部になります。学窓社では来年 3 月末に第 3 刷を発行する予定です。先生方のご協力をお願いいたします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「牛の解剖アトラス」その後

編集委員長　橋本善春

会員の皆様方の訳出ご協力によって本年4月に刊行された「牛の解剖アトラス」(日本獣医解剖学会監訳) は、折から多くの国民が注視する安全な食肉の追求を背景に、牛の解剖学知識をより一層深めたいとの興味や、食肉処理場などでいわゆるリスク･マテリアルとしての神経組織除去を行う必要性などから多くの購入希望が寄せられており、7月末までに 300 冊余を読者の皆様にお届けすることが出来ました。本アトラスには伝統的な手法による詳細な牛の局所解剖学的記載に加え、特に BSE の発生機序やリスク･マテリアルの存在部位に関する1章が設けられていますが、それはこのアトラスがこれまでに多くの消費者に変異型クロイツフェルトヤコブ病の発生をみた欧州各国における食に対する危機感、およびその発生阻止に立ち向かうべく獣医･畜産解剖学者らが強い責任感を発揮させつつ刊行された教科書の一つとみることが出来ます。

著者の Budras 教授によれば、初版に引き続き臨床解剖学の記載を加えた、より実践的な第2版の刊行をすでに企画中とのことで、著者の編集チームの刊行企画力に瞠目しつつ、私はそのノウハウを今後の私どものオリジナル解剖書企画の中に活かす道を模索して行くべきであると考えています。そして今年の冬学期に反すう動物 (牛) の解剖学実習が予定されている多くの獣医･畜産学生の方々にご利用いただきたいと思います (定価の2割引。印税はもっぱら日本獣医解剖学会の今後の活動に役立てられます。ご担当の先生方どうぞご利用よろしくお願いします)。

もう一つの獣医解剖学用教材として筆者らは只今、犬の解剖学実習用 CD 日本語版 (ムービー：前肢および後肢、日本語解説付き。著者：Prof. Sotonyi, ブダペスト大学獣医解剖学講座) を早い時期に刊行することを計画しています。この CD ムービーを使用することによって、いたずらに犬の命を奪うことなく自分の PC 上で満足ゆくまでくり返し解剖学実習にいそしむことが出来るようになります。そしてこの CD を活用する方法が新しい有効な学習方法の一つになることを期待しています。尚、Prof. Sotonyi は来春つくばで開催予定の第 141 回日本獣医解剖学会教育シンポジウム講演者の一人として講演いただく予定です (*Application of Multimedia Teaching Programs in Veterinary Anatomy Education*)。講演では解剖学 CD ムービー制作の現状やヨーロッパ諸国での解剖学授業への利用法などが詳細に話される予定です。IT 技術を用いて教育内容をより向上させたいとお考えの多くの皆様、ご期待下さい。

――― MEMO -----

学窓社 新刊･解剖学会関連書籍案内

株式会社 学窓社 ，〒113-0024　東京都文京区西片 2-16-28
TEL 03-3818-8701 ／ FAX03-3818-8704
ご注文と書籍の情報はhttp://www.gakusosha.comもご利用下さい。

新刊書籍

☆新たな新進気鋭の研究者･学者によるウイルス病の集大成。 犬，猫以外のエキゾチック，鳥類，観賞魚のウイルス病についても解説。

― 獣医学臨床シリーズ⑳ ―

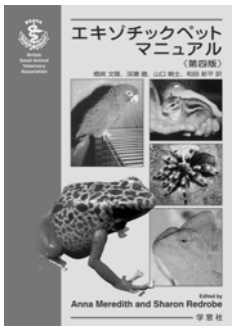
● 犬，猫および愛玩小動物のウイルス病

望月雅美（共立製薬株式会社臨床微生物研究所，所長）監修
B5 判上製本／約 350 頁
定価 12,600 円（本体 12,000 円＋税）
送料 520 円　9 月 20 日発刊予定！

☆ウサギやフェレット，げっ歯類，鳥類，爬虫類，観賞魚そして霊長類にまでおよぶ特異的疾患や解剖さらに画像診断を 300 点以上ものカラー写真やイラストと明解な表を用いて簡潔に解説。

― BSAVA マニュアルシリーズ ―

● エキゾチックペットマニュアル



Anna Meredith & Sharon Redrobe 著
橋崎文隆（上野動物園）／深瀬　徹（明治薬科大学）／山口剛士（岐阜大学）／和田新平（日本獣医畜産大学）訳
A4 判並製本／約 340 頁
カラー写真 329 点
定価 18,375 円（本体 17,500 円＋税）
送料 520 円　9 月下旬発刊予定！

☆一見してわかりづらい猫の疾患において，診断･治療に是非とも役立てたいコンパクトな一冊。

● 猫の内科学ノート

Kit Sturgess 著
長谷川 篤彦（日本大学）監修／田中亜紀 訳
B5 変型判並製本／約 368 頁
定価 8,400 円（本体 8,000 円＋税）　送料 520 円
9 月下旬発刊予定！

学会関連書籍

☆写真図表がグレードアップ，さらに理解しやすい内容の教科書に。

● 獣医組織学 第三版　日本獣医解剖学会 編

A4 変型判上製本／326 頁／CD-ROM 付カラー写真，図表多数
定価 9,975 円(本体 9,500 円＋税)　送料 520 円　好評発売中！

☆新たに家禽用語を合本。総 23,000 語句。ミクロ，マクロ解剖に関するすべての学術用語を網羅。

● 獣医解剖･組織･発生学用語

B6 変型判並製本／1,760 頁
定価 12,600 円（本体 12,000 円＋税）　送料 520 円　好評発売中！

>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>

編 集 後 記

つくばエクスプレスも計画から約20年をかけて何とか動きだしました。我々獣医解剖学会もＡＶＡＡ設立に向けて動き出しました。日本での揺るがない学問的な位置とアジアでの推進役となるべく知恵を出しあいながら一歩一歩着実に進みましょう。獣医解剖学の底知れぬ魅力の継承･発展には、会員個々の努力と協力が絶対必要条件であると思う北の住人です。

編集子